

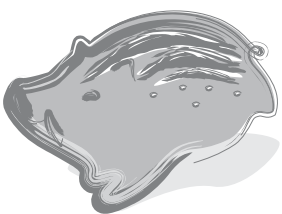


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第四十八号〕

大雪たいせつ

十二月七日



猪狩

五十鈴川の上流部、高麗こうらい広では冬の訪れとともに猪狩ししがりが始まりました。内宮前ではちよつと想像できませんが、十キロほど離れた山中では、猪や鹿を獲物にする狩が冬の間行われています。かつては生活のために行っていました。今は農作物の被害を減らすための駆除と趣味を兼ねているそうです。

先日十一月の半ば、猪狩が始まるにあたって神事がありました。あいにく朝から雨が降り続いたため、民家の納屋で注連しめなわ縄を打ちました。その後、小屋で一息つくとき、あそこで逃げられたとか、こけたとか、猟の自慢話、失敗談に花が咲きます。猪が姿を現すことを「来た」、打ち落とすことを「ころぶ」といいます。撃ち殺すとは言いにくいので、仲間内ではあえて「ころぶ」と言い換えるのだそうです。

猪狩は四、五人でチームを組んで行います。要所要所に鉄砲打ちが待ち構え、そこへ猟犬を伴った勢せ子が獲物を追い込んでいくのです。今年もすでに猪の居場所はわかっているようで、谷や峠の名前を出して、どのように追い込み、しとめるかを相談しています。

神事は仙人谷と呼ばれる川辺のカシの根元に新しい注連縄を張り、赤飯と御神酒おみき、まんじゅうを供え、猟の安全を祈りました。近くでは火が赤々と燃えています。天気がいいと火のそばで注連縄を打つそうです。雨足が強くなったので、その日は早々に解散になりましたが、いつもならそのまま山野に繰り出します。

山の地形を知りつくした獵人と猪の知恵比べ。冬の山で行われる熾烈な戦いです。

文 千種清美

